

図書館友の会 ニュース

2024 年
10 月号
No. 32

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 杉原 富人》

図書館友の会 岸和田再発見教室 公開講演会

卑弥呼とヤマト王権 一邪馬台国論の現在地一

講師：寺沢 薫 氏

(桜井市纏向学研究センター所長)

江戸時代から続く邪馬台国の所在地論争は未だに決着を見ません。しかし、山積する考古学の発掘資料を総合的に精査し、そこから得られる2～3世紀の権力構造や政治的な枠組を正しく組み立て、その上で「魏志倭人伝」などの中国史書に描かれる「卑弥呼共立」のプロセスと照合するという正当な方法を徹底することで論争終結の糸口はすでに見えていると思います。講演では鍵を握る纏向遺跡の出現という重大な事件を中心に新たな邪馬台国論を提起します。



日時 11月30日(土)13:30～15:30(開場13時)

場所 岸和田市立八木市民センター2階講座室1

定員 60名(先着順) 参加費：無料

【主催】岸和田市図書館友の会・八木地区市民協議会

* 駐車スペースが少ないため、自動車でのご来場をご遠慮ください。

戯曲教室
公開講演会

シェイクスピアの名作「マクベス」の改作と現代性

「ザ・スコティッシュプレイ～民の悲劇!」の上演に向けて

講師：井之上淳氏(劇団五期会副代表、大阪芸術大学短期大学部非常勤講師)

日時 12月15日(日)13:30～16:00

【参加費：無料】

場所 図書館本館、自習室(3階)

定員 80名(申込先着順)

11月9日(土)より岸和田市立図書館
本館(072-422-2142)で受付。

【主催】図書館友の会、泉州・演劇を楽しむ会、岸和田市立図書館

日時 11月16日(土) 13:00～16:00

場所 岸和田市立図書館 3階視聴覚室 【参加費無料】

定員 20名(申し込み先着順) 11月2日(土)から申込み受付

岸和田市立図書館(072-422-2142)へ申し込んでください。

文章教室では、倉橋健一先生の「何でも書こう」という言葉のもとに、各自が身の回りの出来事や興味のあることを、毎回2,000字程度の文章にして朗読し、合評しています。長い文章は1回で終わらず続きものにすることもあり、そんな中で小説に挑戦している人もいます。

当日は、普段の教室の雰囲気のまま、身近な話題の文章で、たくさんの意見交換をしたいと思っています。作品を持って来てくださっても結構です。1,000字前後(原稿用紙2、3枚まで。短くても可)で20部程準備してください。

また、教室生が文章教室に入ったきっかけ、よかったこと、書くことについての思いなどを語ったり、参加くださった方からの質問を受け付けたりする時間も設けたいと考えています。興味のある方は、是非ご参加ください！！



賢治の著作を読みたくなった

好評だった「詩の教室」公開講演会

「宮澤賢治、その人・人生・作品について」

連日猛暑のなか7月21日(日)、詩人・文芸評論家の倉橋健一氏の講演会を開催。参加者37名。10代の方もおられました。短時間にも係らず、童話における賢治の世界観・宇宙観・宗教観、妹トシとの関係、また、いくつかの詩を取り上げその解説など、広範な視点から、賢治の人物像が窺えました。

参加者からは、「賢治の著作を読みたくなりました」「賢治その2をしてほしいです」等、賢治の魅力はより深まったようです。

◇ 倉橋健一氏の講演を聴いて

「詩の教室」生 西山光子

外の暑さを忘れるかのように、図書館視聴覚室には東北の、賢治の爽やかな風が通り抜けました。会場はほぼ満席、37名の出席。約2時間余の講演。

私たちが平素親しんできた多くの童話、それらに関するお話だと思っていましたが、今まで知り得なかった賢治を熱っぽく話されるその内容に聞き入りました。

沢山の童話を書くに至る、いえ、書かねばならない賢治の苦悩、信仰、豊かな文学的才能、そして何よりも当時の東北地方の暮らし、風土、社会性、等々それらを真正面から受け止めての諸活動、執筆。頂いた資料(プリント)からその一部を知ることができました。

東北地方の苛酷な風土で共に生きるといっても賢治の実家は地方の名家、質商で彼は父親には感謝しつつも「おれたちはみな農民である ずいぶん忙しく仕事もつらい もっと

明るく生き生きと生活をする道を見付けたい」と言わざるを得ない心境を崩すことはなかったのです。

また、彼の無二の親友で詩人の保阪嘉内にあてた封書には自分の置かれた環境とはどういふものか、「古い布団綿、あかがついてひやりとする子供の着物、うすぐろい質物、凍ったのれん…」と述べています。これらは質草なのです。

講師のお話を聞きながら私は賢治については何も分かっていなかったと思いました。数々の作品をただ読んだだけの知り様であったのです。私の賢治はこの日から少し変わりました。講演会のおかげです。「銀河鉄道の夜」の主人公ジョバンニと親友カムパネルラ、カムパネルラのモデルはあの詩人保阪嘉内。改めて読み直した短編童話「度十公園林」共に貫いているのは「本当の幸いは一体何だろう」これは賢治の求道に他ならないと思いました。講演会でいただいたものは大きく深いものです。有難うございました。

ご興味あれば倉橋健一氏の著書『宮澤賢治——二度生まれの子——』をお薦めします。

地名の秘密

③⑩ 相撲(すまい)

昔、天覧相撲が行われたという古事による。 滋賀県長浜市にある「難読地名」の一つ

2008 年、私は琵琶湖一周ウォーク全 216 km を踏破した。16 年前になる。その時長浜市を通ったが、県道の道路標識が「相撲」と書かれていた。珍しい名前の標識だなあと思った記憶がある。

『日本書紀』11 代垂仁（すいにん）天皇 7 年の条に、相撲始祖のはなしが、ただ一つだけ記録されている。古事記には記載がない。当麻蹴速（たいまのけはや）と野見宿禰（のみのすくね）の話である。2 人相向かいて立つ。おのおの足をあげて相蹴（あいふ）む。相撲（相打の意）の原義は「素舞い」であった。日本の国技「相撲（すもう）」の別称は、「素舞い」。語源は、「争う」「抵抗する」という意味の「すまひ」が「すもう」となったといわれており、古代には格闘技としての意味合いが強いものだった。現在の大相撲も東西の控えから土俵に上がった力士は、手を開（ひら）きかざし、四股を踏んでみせる。これは、単なる儀式や習慣ではない。武器を使わず素手で戦う意思を顧客に明示する仕草（しぐさ）を伝えて来たものである。

また一説によれば、昔朝廷でおこなわれた相撲の儀式の費用を賄う田地の名前が「素舞い」で、相撲（すまい）の地名になったという。相撲の節会（せちえ）とは、奈良、平安時代に、群臣に宴を賜う儀式であった。相撲取りは、諸国に使を出して集められる。毎年 7 月に、宮中において、禪の上に、狩衣（かりぎぬ）、袴で取り組みを行ったと伝えられている。費用捻出には土地が必要だったのだろう。現在「相撲町（すまいちょう）」は郵便番号や資料館も存在する。

【参考文献】『47 都道府県・地名の謎と歴史』 k k ベストセラー。

『鬼の日本史上』沢史生発行所(株)彩流社。その他メール

【文責】 文章教室 浦田榮二

友の会 「文学歴史散歩」(バスツアー)

今年の「文学歴史散歩」は、世界の生活文化と考古美術の博物館である天理大学附属天理参考館、弥生時代にヤマト地域での拠点集落であった唐子・鍵遺跡と考古学ミュージアムを訪問し、「ヤマト王権誕生」の経緯などを実地見聞します。

日 時：11月15日(金)図書館本館前8:30 発

岸和田駅東側(第1ゼミナール前)8:50 発

参加費：6,000円(入館料・昼食代を含む)

定 員：32名(申込先着順)

申込方法：10月8日(火)10時より受付



※ 図書館本館へ電話(072-422-2142)か直接お申し込みください。

「友の会」各教室の方は、各教室担当者へお申込みください。

* キャンセル料：実施前(11/12~14日)50%、実施当日(11/15)100%

◆行程：参加費6,000円は当日徴収します。

図書館本館前発8:30⇒南海岸和田駅東側(第1ゼミナール前)発8:50⇒天理大学附属天理参考館(博物館)着10:00【見学約1.5時間】同発11:40⇒花惣天理店着11:50(昼食)~12:50⇒唐子・鍵考古学ミュージアム着13:10【見学約1時間*】同発14:10⇒道の駅レスティ唐子・鍵着14:15/同発15:30⇒南海岸和田駅着16:40⇒図書館本館前着,17:00

*) 学芸員による「ヤマト王権」に関連する約40分間の展示説明を予定しています。

当日、天理参考館では「天理図書館 開館94周年記念展」として、下記の展示が行われています。

芭蕉の根源—北村季吟(きぎん)生誕四百年によせて

江戸時代前期を生きた季吟は、源氏物語の『湖月鈔』、枕草子の『春曙抄』など、古典の注釈書を多く著しました。それらが広く、そして明治時代にいたるまで長く読み継がれてきたことで知られている人物です。彼は医を修め、俳諧師としても一門をなし、晩年には江戸幕府の初代歌学方にも就いた、まことに多才なひとかどの文化人でもありました。

そして、その俳諧の一門のなかに松尾芭蕉がいます。古典や和歌を通じた人格錬磨を俳諧師にも求めた季吟。その門から出でて風雅を追求し、師風を離れて独自の世界を築いた芭蕉。本展覧会では、季吟と芭蕉の自筆資料を中心に展示し、この師弟の人生を辿ります。